

平成25年度常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財)日本植物調節剤研究協会

平成25年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成26年6月10日(火)にホテルラングウッドにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者21名、委託関係者23名ほか、計53名の参集を得て、除草剤1薬剤(3点)、生

育調節剤9薬剤(38点)、展着剤1薬剤(1点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成25年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・旧 の 別	試験担当場所 ▷は試験中など (抜)	ねらい試験設計等	備考	判定	判定内容
1. MAH-1201 傾水和剤 DCMU:80.0% [マクシム・ブロン・ジ・ヤバシ]	パインナップル	適用性 新規	沖縄名護 沖縄石垣	ねらい (3) 対象 雑草 一年生作物 全般 一年生雑草 全般 多年生作物 - 多年生雑草 - その他 - 設計 薬量 <水取> /10a 全面土壌散布 傾付直後(雑草発生前) 150g <150L> , 150g <100L> 200g <100L> , 400g <100L> (倍量区) 対) 傾付直後(雑草発生前) 150g <100L>		実・継	実) [パインナップル:一年生雑草] ・傾付直後、雑草発生前 ・150~200g/10a<100L/10a> ・土壌処理 継) ・水量150Lでの除草効果の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・旧 の 別	試験担当場所 ▷は試験中など (抜)	ねらい試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AKD-8147 水溶 1-ナフチル酢酸ナトリウム :22% [アノカシヨ]	温州 みかん	適用性 継続	愛知 山口 椎名振七 福岡	ねらい (4) 設計 薬量 <水取> /10a 全摘果(満開10~40日後への拡大) 立木全面散布あるいは枝別散布 二次生理落果発生期(満開20~40日/1回) 500倍<十分量> , 1000倍<十分量> 対) 水溶剤 一次生理落果発生期(満開10~20日/1回) 1000倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。	実・継 どおり	実) [温州みかん:全摘果] ・一次生理落果発生期(満開10~20日後) ・500~1000倍 ・立木全面散布又は枝別散布 継)二次生理落果発生期(満開20~40日後)での効果、葉果の確認
	たまみ	適用性 新規	自社試験 (愛媛)	ねらい (1) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10日後/1回) 1000倍<十分量> 生理落果発生期(満開20日後/1回) 1000倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。	実・継 どおり	実) [みかん(温州みかんを除く):摘果] ・生理落果盛期 (満開10~20日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別散布
	天草	適用性 継続	自社試験 (福岡)	ねらい (1) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10~50日後/1回) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。		・効果の確認された品種 天草、伊予柑、清見、せとか、はるみ
	伊予柑	適用性 継続	自社試験 (愛媛みかん研)	ねらい (1) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10~50日後/1回) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。		[清見、湘南ゴールド、せとか:摘果] ・生理落果盛期 (満開20~50日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別散布
	不知火	適用性 継続	自社試験 (愛媛みかん研)	ねらい (2) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10~50日後/1回) 1000倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。		継) ・満開20~50日後での効果、葉害の確認 [甘夏、伊予柑、はるみ、天草、不知火、まなわ]
	はるみ	適用性 継続	自社試験 (福岡)	ねらい (1) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10~50日後/1回) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。		・1500倍での効果、葉害の確認 ・満開10~20日後での効果、葉害の確認(たまみ、不知火、まなわ)
	まなわ	適用性 継続	自社試験 (愛媛みかん研)	ねらい (1) 設計 薬量 <水取> /10a 摘果効果 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果発生期(満開10~50日後/1回) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	一般的な展着剤を添加する。実際の散布量を記録する。落果率に加え、残存果に対する品質、葉果比、落葉への影響を調査する。		

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 【委託者】	作物名	試験の 種別 ・系統 ・種別	試験担当場所 (>は試験中など (株))	ねらい	試験設計 等	備考	判定	判定内容
2. CS-22H 水和 炭酸カルシウム:91.0% 【白石加シダ】	温州 ミカン	適用性 系統 ・種別	愛媛 果樹研 佐賀 果樹試 長崎 果樹研 熊本 果樹研 (5)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	浮皮軽減効果及び果皮水分減少促進 枝別又は樹別散布 着色初期 100倍 1回 <十分量(500L/10a)> 着色初期~5分着色期 100倍 2回 <十分量(500L/10a)> 対) カブツ 枝別又は樹別散布 着色初期 100倍 1回 <十分量(500L/10a)>	樹別散布を希望 処理区および無処理区 は他の浮皮軽減剤の使 用はしない。浮皮の発 生し易い品種を希望。 調査項目:浮皮発生率、 浮皮発生度、予措効果、 程度別発生割合、果実品 質、果皮色希望。	実・維 実	【温州ミカン:浮皮軽減】 ・着色初期 ・100倍 1~2回 十分量 ・散布(果実表面に十分付着するよ う) 注) ・果実の表面に白色の汚れが残る 場合がある 補) ・果皮水分減少促進効果の確認
3. イブ 0101 乳 イブ 0101:40.0% 【日本農業】	温州 ミカン	適用性 系統	愛媛 みかん研 佐賀 果樹試 長崎 果樹研 熊本 果樹研 (4)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	着色促進 立木全面散布 収穫20~30日前 2000倍 <十分量> 3000倍 <十分量> 4000倍 <十分量> 対) フク 0101 乳剤 立木前面散布 1回目:満開50~90日後、 2回目:満開70~110日後 <慣行>	調査は収穫後、色差 計で果皮色(赤み 値)を測定し、各果 実の着色歩合を調 査する。 果実品質(果実重、 酸度、糖度、浮皮果 率)を調査する。	維 維	【温州ミカン:着色促進】 ・効果、葉害の確認
4. シベリン 水溶 シベリン:3.1% 【協和発酵パケイ】	スガチ	適用性 系統	自社試験 (徳島) (1)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	シベリンの葉量低減による果皮の 緑色維持 果実散布 収穫予定7日前 2.5ppm <50~400L> 収穫予定7日前 5.0ppm <40~400L> 対) 無処理 対) シベリン水溶液 果実散布 収穫予定7日前 10ppm <50~400L>	収穫7日前に果実散 布。収穫後、貯蔵後 の果皮色。	実・維 (従来 どおり)	【スガチ:果皮の緑色維持】 ・収穫予定7~30日前 ・10~50ppm ・散布(果実表面に十分付着するよ う) ・効果の確認された品種:スガチ、ス ガチ長門スガチ、ベス、スレ ン 補) ・ベスに対する効果、葉害につい ての年次変動の確認。 ・スガチにおける低葉量(2.5~ 5.0ppm)での効果、葉害の確認。
5. シベリン ベース シベリン:2.7% 【福岡県農業総合試 験場】	べにば え	適用性 系統 (自主)	福岡 (1)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	新梢伸長促進 新梢基部塗布 発芽~展葉期 春芽/1回 100mg/頂芽基部 春芽/1回・夏芽/1回 100mg/頂芽基部 対) 無処理		維 維	【べにばえ、みはや:新梢伸長促進】 ・効果、葉害の確認
	みはや	適用性 系統 (自主)	福岡 (1)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	新梢伸長促進 新梢基部塗布 発芽~展葉期 春芽/1回 100mg/頂芽基部 春芽/1回・夏芽/1回 100mg/頂芽基部 対) 無処理		維 維	【べにばえ、みはや:新梢伸長促進】 ・効果、葉害の確認
6. シベリン水溶 /PDJ 液 シベリン:3.1% プロトノジキシン:5% 【協和発酵パケイ】	温州 ミカン	適用性 系統	独 果樹研(徳島) 和歌山 果試 山口 柑桔長 愛媛 みかん研 (4)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	浮皮軽減(シベリン)葉量低減 果実散布 収穫予定日の3ヶ月前 GA1.0ppm+PDJ1000倍 <十分量> GA1.0ppm+PDJ2000倍 <十分量> GA3.3ppm+PDJ2000倍 <十分量> 対) 無処理	浮皮の程度、着色、 果実品質調査 調査時期は通常収 穫期の1週間前、通 常収穫期の1週間後 及び2週間後	実・維 維	【温州ミカン:浮皮軽減】 ・収穫予定3ヶ月前 ・シベリン2.5~1.0~5ppm + PDJ25~50ppm(1000~2000倍) 十分量 ・散布(果実表面に十分付着するよ う) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため貯 蔵用のウツカワで使用する ・処理により緑斑を生じることが ある 補) ・シベリン低濃度での効果の確認 ・シベリン1~2.5ppmでの着色遅延 について
7. シベリン水溶 /PDJ 液 シベリン:3.1% プロトノジキシン:5% 【長崎県農林技術開 発センター】	温州 ミカン	適用性 系統 (自主)	長崎 (1)	ねらい 設計 薬量 (水取) /10a	着色8~9分時散布によるクマキク防止 枝別散布 着色8~9分時(収穫20~30日前) PJ150ppm+GA5ppm <十分量> PJ150ppm+GA3.3ppm <十分量> PJ125ppm+GA5ppm <十分量> PJ125ppm+GA3.3ppm <十分量>	シベリンとプロトノ ジキシンの混用散布 による使用	維 維	【温州ミカン:クマキク防止】 ・効果、葉害の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 別	試験担当場所 <試験中など (数)>	ねらい・試験設計 等	備 考	判定	判定内容
8. ジベレリン 水溶 / マン油 乳 ジベレリン: 3.1% マン油: 97% [協和発酵*付]	温州 ミカン	適用性 継続	和歌山 果試 <中間> 山口 柑キ振 香川 府中 愛媛 みかん研 佐賀 果樹試 熊本 果樹研 (6)	ねらい 花芽抑制による樹勢維持(マン油との混 用使用により更なる葉量低減) 設計 葉量 <水量L> /10a 立木全面散布及び枝別散布 収穫直後 GA2.5ppm+マン油60倍<十分量> 収穫約2ヵ月後 GA2.5ppm+マン油60倍<十分量> 収穫直後 GA2.5ppm+マン油80倍<十分量> 収穫約2ヵ月後 GA2.5ppm+マン油80倍<十分量> 収穫直後 GA5.0ppm+マン油60倍<十分量> 収穫約2ヵ月後 GA5.0ppm+マン油60倍<十分量> 収穫直後 GA5.0ppm+マン油80倍<十分量> 収穫約2ヵ月後 GA5.0ppm+マン油80倍<十分量> 対) 無処理	直花数、有葉花数、 新梢数、新梢長を調 査する。	実・継 (実) [温州ミカン]花芽抑制による 樹勢の維持 ・1月(但し、収穫約2ヶ月後) ・ジベレリン2.5ppm+マン油60~80倍 十分量 ・立木全面または枝別散布 注) ・マン油の使用上の注意に準ずる 継) ・11月処理での効果、葉害の確認	[花芽抑制による樹勢維持] ・効果、葉害の確認
	温州 ミカン	適用性 継続	神奈川 根府川 静岡伊豆<中間> (2)	ねらい 花芽抑制による樹勢維持(マン油との混 用使用により更なる葉量低減) 設計 葉量 <水量L> /10a 立木全面散布及び枝別散布 11月(但し、収穫後) GA2.5ppm+マン油60倍<十分量> 1月 GA2.5ppm+マン油60倍<十分量> 11月(但し、収穫後) GA2.5ppm+マン油80倍<十分量> 1月 GA2.5ppm+マン油80倍<十分量> 対) 無処理	直花数、有葉花数、 新梢数、新梢長を調 査する。		
	不知火	適用性 新規	自社試験 (宮崎)	(1)	ねらい 花芽抑制による樹勢維持(マン油との混 用使用により更なる葉量低減) 設計 葉量 <水量L> /10a 立木全面散布及び枝別散布 収穫1ヵ月後 GA2.5ppm+マン油60倍<十分量> GA2.5ppm+マン油80倍<十分量>	直花数、有葉花数、 新梢数、新梢長を調 査する。	継 (継)
9. ジベレリン 水溶 /ホウロウ7-エニオン 液 ジベレリン: 3.1% ホウロウ7-エニオン: 0.1% [長崎県農林技術開 発センター]	ビワ (龍月)	適用性 新規 (自主)	<長崎> (1)	ねらい 果実の着果安定および果実肥大促進 設計 葉量 <水量L> /10a 結果枝別(花房)散布 満開7日前→1回目処理35日後 ジベレリン200ppm+ホウロウ7-エニオン20ppm<十分量> 満開7日前→1回目処理60日後 ジベレリン200ppm+ホウロウ7-エニオン20ppm<十分量> 満開時 →1回目処理35日後 ジベレリン200ppm+ホウロウ7-エニオン20ppm<十分量> 満開時 →1回目処理60日後 ジベレリン200ppm+ホウロウ7-エニオン20ppm<十分量> 対) 無処理 参) 人工授粉	・ジベレリンとホウロウ7-エニ オンの混用散布。 ・花房全体にわたらずに 散布する。 ・袋内に葉液がたまっ た場合は速やかに排 出させる。 ・開花前から花房をビ ニール袋等で被覆し、龍月 以外のビワ花粉との接 触を遮断した状態で 実施する。 ・無処理区は同時期に 開花した花房を調査。 なお、開花前からビワ の花房をビニール袋等 で被覆し、龍月以外のビ ワ花粉との接触を遮 断。 ・人工授粉区は同時期 に開花した花房に対 して人工授粉を行い、 有核とした果実を調 査。	-	<試験中>